

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 山末	
日 時	平成29年8月23日(水曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 10 時 59 分
出席委員	◎小川 ○富谷 酒井 平本 齊藤 小島 馬場		
事務局	片岡事務局長、鈴木議事調査係長、山末		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 一名	議員1名(菱田)

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務事業評価対象事業の選定

<小川委員長>

事務事業評価対象事業の選定及び日程について、事務局から説明を。

[事務局主事説明]

<小川委員長>

前回各委員に事務事業評価の対象事業の抽出をお願いした。今回は対象事業を報告いただき、選定の上、事業項目の決定を行う。各委員から抽出した事業とその理由など報告願う。

<馬場委員>

1つ目はP 4、国民健康保険特別会計繰出金。本市は一般会計からの繰り出しの場合、ルール分については繰り出しをしているが、それ以外についてはしていない。その中身をお聞きしたい。2つ目はP 8、火葬場等経費。審議会を何回か傍聴しているが、非常に微妙な動きがある。

<平本委員>

P 9、敬老事業経費。敬老乗車券の制度が始まるので、敬老事業全般にわたって見直していかなければならない部分があるのではないかな。

<酒井委員>

P 27、母子保健事業経費。6月補正で子育て世代包括支援センター業務委託料として828万1千円を補正したが、その後いろいろなことがあり直営になっている。これはプロポーザルでやっていかなければならないものなのか、どのような事業をされ、どのような成果が上がっていたのか等を確認することも大切だと思う。2点目はP 8、浄化槽設置整備事業経費。浄化槽設置整備事業費補助金ということで688万6千円が上がっているが、9月補正で単費で438万円上乗せしている。これは地元から要望を聞いた上でやっていただけそうだという見込みでの計上だったのでこの内容がどうだったのか。それを踏まえて今後の事業を考えていくということなので聞いておいてもよいと思う。

<富谷副委員長>

ごみ減量・資源化等推進事業経費。集団回収報奨金について、1400万円は多額だと思う。去年の事務事業評価では急にやめると受け取る側に支障が出るという説明であった。今回100万円ほど減額になっているが、半額ぐらいでよいのではな

いか。必要性を明確にしていきたい。

<齊藤委員>

火葬場等経費のみである。今後のあり方等についてさらに深くやりたい。

<小島委員>

平本委員と同じく敬老事業のあり方について、昨年から減額されたことから各自治会においても困惑されているということも含め、全般について聞きたい。P 2、環境保全対策経費の関係で雑草パトロールについて、嘱託職員報酬も含めて足りているのか。また、広い市域全域をパトロールできているのかという点を聞きたい。

<小川委員長>

現在出ている意見の中で3事業程度に絞り込みたい。

<齊藤委員>

敬老事業について、曾我部町においてはこれまで1本でやっていたが、各区でやろうということになった。現状では、区でやった方がたくさん来られている。そういったことも含めて見直していくのもよいのではないかな。

<酒井委員>

敬老事業については、事務事業評価で議論になったのは何のためにやっているかということであった。目的の所に高齢者の長寿をお祝いするということが書いてあり、それは税金を使うのにふさわしい内容なのかと聞いたら、地域とのつながりや高齢者の外出促進のためにやっているということであった。しかし、詳しく内容を聞いていくとそのような効果を見ていないということということで非常に疑問があり、大幅に見直すようにということを経済委員会から出した結果、市長がそれだったらやめにしましょうということになった時に議会がどうしたのか。再度取り上げてどのような方向性でされるのか。話を聞いていると、区でお祝いができるように補助金を出した方がよいのではないかなという思いがあるように感じたが。

<齊藤委員>

私は廃止すればよいと思っている。敬老祝賀会を大々的にするよりも各区でやった方がたくさん来られているのであれば、敬老祝賀会という形でなくてもよいのではないかなということである。

<馬場委員>

敬老事業については議論してきたが、町内会によってかなり実態に違いがある。町内で取り組んでいる中身のため、議会から一方的に言うのではなく、慎重に扱うべきではないかなと思う。しかし、敬老事業のあり方と、齊藤委員が言われたような機械的に行政が一律の補助をするというのは別問題なので、そこはよく吟味をしていく必要があると思う。

<平本委員>

これまで1人あたり5000円であったものを2500円にしているが、高齢者が何を求めているのか、補助金を出すのに値しているのか、それだけ喜んでいただいているのかどうか。予算には限りがあり、敬老乗車券が始まることも含めて再度検証してもよいのではないかな。

<酒井委員>

半額になるのは今年度であり、前年度の決算なので今まで通りの内容を見ていくことになると思う。しかし、このままでよいとは思っていないという委員の皆さんの意見を聞いたので、もし受益者から反発が起きるような結論が出た時に自分たちが出した結論をきちんと見守っていけるのかということを考えて上で取り上げるのであればよいと思う。

<小川委員長>

敬老事業のあり方について意見があった。次年度の予算等にも影響してくると思われるので、そのあたりをきちんと取り扱えるのであれば取り上げたい。

<齊藤委員>

曾我部町ではこのような流れになっているが他の自治会ではどうなのか。

<平本委員>

篠町では安詳小学校の体育館で役員が全て準備し、カラオケや寸劇を行うなど、手作りの敬老会をされている。現在のところは大きく変わる方向性はないと聞いている。

<富谷副委員長>

篠町では中学校の吹奏楽など多年代が参加し、お金をかけずに楽しめるような会にしたい。また、区単位では負担が大きくなるので自治会単位でやりたいということは聞いている。

<小川委員長>

千代川町は区負担もあるが現状どおりである。

<馬場委員>

亀岡地区中部自治会ではこれまでの会場が耐震の関係で使えないためガレリアの響ホールで行う。半額になっているので、自治会の負担が増えていると思う。

<小川委員長>

取り上げる項目をまとめていきたい。

<馬場委員>

国保は特別会計でもあるので取り下げても構わない。承知いただきたいのは、8月24日に国民健康保険運営協議会がある。それまでは議員が聞いても答えてもらえない。運協があるまでは資料は出せないと言われる。ただ、これに関しては別のところでも言えるため、項目に上げなくてもよい。

<富谷副委員長>

敬老乗車券は今年度からの施策なので、来年度の方が効果的であると考ええる。

<平本委員>

子育て世代包括支援センター業務について、見直しはあったがその後のことがわからないので非常に関心がある。

<小川委員長>

敬老事業の取り扱いはどうするか。

<馬場委員>

副委員長の発言のとおり来年の新しい方針のもとでやるのがよい。

<小川委員長>

平成29年度に補助金額が変わっている。各地域の取り組みが変わってくるかもしれないので、敬老事業に関しては取り扱わないということでよいのか。

<了>

<小川委員長>

次に多く出ていたのは火葬場と子育て世代包括支援センターである。火葬場等経費について意見はあるか。

<小島委員>

馬場委員、齊藤委員からもあったように取り上げるべきと考える。

<酒井委員>

火葬場の問題は大事だが、予算として上がっている事業を評価していくとなれば意

図している議論ができないと思う。今後の話は事務事業評価としてではなく、別途月例常任委員会でもよいと考える。

<馬場委員>

予算の執行状況を審査するのが決算審査である。この年は非常に揺れているので決算審査でやるべきではないか。当委員会の知らないところで審議され、当委員会が関わらないというのはいかがなものか。

<酒井委員>

馬場委員が言われたことはそのとおりだと思う。そのため、常任委員会でやればどうか。どのような資料が出され、現在はどのような話なのかということは決算分科会ではなく常任委員会の内容である。審議会が開催されずに予算が使われなかったということを事務事業評価でやったとしても、なぜ開催されなかったという話は6月定例会の審議会条例の議案審査の際に聞いているのでそれ以上の話が出てくるとは思えない。

<馬場委員>

決算審査の中心点は当初の予算がなぜ執行できなかったのかということである。そういう面では常任委員会での議論ではなく、決算分科会として取り上げるべきではないか。

<齊藤委員>

常任委員会で説明してもらい議論するというのもよいと思う。

<酒井委員>

決算審査の事務事業評価の論点として、なぜ不用額が生まれたのかということか。

<馬場委員>

そうである。

<酒井委員>

論点がそれだけであれば無理に3項目にしなくてもよいと思う。

<小島委員>

審議会に特化しても掘り下げにくくなる。月例常任委員会での対応も可能かと思うので委員長に一任する。

<馬場委員>

委員長に一任する。

<小川委員長>

火葬場に関しては、常任委員会として状況を聞くこととする。子育て世代包括支援センターについてはどうか。

<齊藤委員>

結構である。

<富谷副委員長>

聞きたいことである。事務事業評価に選定していただきたい。

<小川委員長>

子育て世代包括支援センターについて取り上げる。その他、環境保全対策経費、ごみ減量・資源化等推進事業経費、浄化槽設置整備事業経費について意見が出ている。まずは浄化槽設置整備事業経費について、酒井委員から意見が出ていたが補足があれば。

<酒井委員>

単費で上乗せしているが、今までは補助金の予算をなかなか使っていないという状況であった。元々は一般財源が240万円ほどだったがその倍以上も上乗せ

している。上乘せ分は事前に使っていただけるという話ができているという説明だったのできちんと使っていただけているのかどうか。モデル事業で3年間行ってから全域に広げていくということだが、しっかりできているのであれば3年を待たなくてもよい、畑野町の方も困っておられるので先の展望を考えるためにも補正で上乘せした分がどのように使われたのか、また当初分についてもどれくらいの活用状況なのかということを見て今後について話し合っていきたい。

<小川委員長>

他に意見があるか。

<平本委員>

浄化槽については委員会でも議論してきたが、納得のいく説明が受けられなかった。一度聞いてもよいのでは。

<小島委員>

特定の地域的なものもあるが、市民サービスの公平化の中で効果的に執行できているのか。事務事業評価すべきと考える。

<富谷副委員長>

今後広げていくということなので、一旦検証すべきと思う。先ほど環境保全対策経費についての意見があったが、不法投棄のことでよく相談を受ける。本当にこの経費で満たされているのかということに疑問があるため、個人的には環境保全対策経費を優先していただきたい。

<小川委員長>

浄化槽設置整備事業経費を取り上げる。その他について考えを聞きたい。

<富谷副委員長>

集団回収報奨金は昨年度も取り上げたが、業者からキロ数に応じてお金をいただいているにもかかわらず、さらに市からも報奨金をいただいているという現状がある。二重にする必要があるのか。去年も明確な答弁がなかったように思う。これがなくてもやっていたら減るとは思わない。無駄とは言わないが費用をかけすぎではないか。再度聞きたい。

<馬場委員>

集団回収報奨金は昨年度も取り上げているので要らないのでは。私の団地は子ども会が廃品回収をやっている。団地自治会の子ども数が減る中で、現在は子ども会の有力な活動資金になっている。そこを減らすと反発の声が出てくる。

<小川委員長>

昨年度の審査で取り上げているので、取り上げなくてもよいのではないかという意見があるが。

<酒井委員>

活動資金として喜ばれているので続けるということは目的から外れているが、昨年とは違った論点が出てくるのかということが問題だと思う。同じことを聞いても仕方がない。

<富谷副委員長>

活動資金のためのお金ではなく、集団で回収していただくことを推進するための補助金である。お金がもらえるからやるというものではないので、それがなかったからといって止められるとは思わない。必要とされているところもあるかもしれないが、必要ではないという考えの方もおられると思う。金額が金額なので検討の余地があるのではないか。

<酒井委員>

趣旨に合っていないためやるべきではないという結論が出せるのであれば意味があると思うが、それで喜んでいる人がいるから続けるべきだという意見が混ざり、結論が一本化できないのであれば昨年と同じようなことになると思う。項目に上げる前段階で皆さんの考えを聞いた上で、意味のある結論が出せそうかどうかを探ってからでもよいかなと思う。他の委員の考えはどうか。

<馬場委員>

補助金がなかったら事業が進まなくなるとは思っていない。ただ、これだけを取り上げるのはいかがなものか。補助金全体で必要なものや不必要なものがたくさんある。環境厚生常任委員会が所管している補助金を総ざらいで出して集中審議してはどうか。

<酒井委員>

これだけを取り上げてと言われたが、敬老事業の補助金もそうである。狙いうちというわけではない。

<富谷副委員長>

集団回収報奨金について、かなり昔に申請しただけで、業者から届出をすればお金が入ってくるというシステムを聞いて驚いたので聞きたい。

<齊藤委員>

取り上げてはどうか。

<富谷委員>

委員会として大幅に減額という意味統一が出来れば意味のある事務事業評価になると思う。各委員の考えを聞きたい。

<馬場委員>

結論ありきの事務事業評価はない。

<酒井委員>

最初からこれをなくしたら困る人がいるという思いをするのを結論ありきと言うのである。そういうことなく、新しい論点もなしに同じことをするのであれば意味がない。しかし、先ほど富谷副委員長から申請もせずに補助金が入ってくるシステムになっていると聞いて私も驚いた。そもそも申請なしで補助金を出してもよいのか。それは新しい論点なのでそこを含めてするのであればよいかもしれない。

<小川委員長>

申請のシステムを踏まえた運用状況などを分科会として取り上げたい。ごみ減量・資源化等推進事業経費を項目に入れる。これで3点になるが。他に意見はあるか。
(意見なし)

<小川委員長>

分科会としては、浄化槽設置整備事業経費、ごみ減量・資源化等推進事業経費、母子保健事業経費の3点を選定する。現地視察の希望はあるか。
(意見なし)

<小川委員長>

現地視察は実施しないこととする。

3 その他

<小川委員長>

限られた時間の中で論点に沿った質疑を行い、円滑かつ適切に評価できるよう、次回は事前の論点整理を行う。次回の日程について、事務局説明を。

<事務局主事>

事前の論点整理は、実際に使用する調書でもって行うのが望ましい。当日の資料である評価調書を早めに提出してもらうよう執行機関と調整しており、その調書の提出を待って論点整理を行ってはどうか。この場合、3分科会共通した日程案としては、9月定例会の常任委員会審査日である9月19日の議案審査後としている。次回開催日程を決定願いたい。

<小川委員長>

次回の開催日は9月19日としてよいか。

<了>

散会 ～10:59